

科目名		音楽 I			学期	前期		
最低面接時数		4 時間	レポート数	3 回	テスト	無	単位数	1 単位
履修できる条件		スクーリングに参加できる生徒			開講する場所			
					本校(日曜)			
評価計画	添削指導	8 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の8割とする。				
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含まない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	実技	2 割	定期					
			試問実技	スクーリング時に楽典の問題を解く。				

toku

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2. 教科の概要(選択の際のアドバイス)

音楽は、本来人間にとって必要不可欠です。自分や社会にとってこの音楽が、どのような役割を持つのか。音楽の意味や価値を考え、深めていきましょう。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	音 I 701	音楽 I Tutti+	017 教出

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	5/7	楽典・日本・西洋の音楽史	楽典・音楽の歴史	音楽基礎を再度確認する。日本と世界の音楽の歴史を学んでいく。
2	6/4	楽典・オペラ「魔笛」	楽典・舞台芸術	音符と休符・調について理解する。オペラについて学ぶ。
3	7/2	世界の民謡・日本の民謡と芸能	日本・世界の民謡と芸能	各国の民謡を知る。日本の芸能について学ぶ。

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	音や音楽に対する自己のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方を試行錯誤しながら、表したい音楽表現について考え、どのように音楽で表現するかについて表現意図を持たせることができる。	音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどを感じ取りながら、自己のイメージや感情と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりを捉え、理解することができる。	レポート・スクーリング・実技の取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・実技の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	音楽Ⅱ			学期	前期		
最低面接時数	4時間	レポート数	3回	テスト	無	単位数	1単位
履修できる条件	スクーリングに参加できる生徒			開講する場所			
				本校（日曜）			
評価計画	添削指導	8割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価8割とする。			
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含まない。			
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	実技	2割	定期				
			試問実技	スクーリング時に楽典の問題を解く。			

1. 目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

音楽は、本来人間にとって必要不可欠です。自分や社会にとってこの音楽が、どのような役割を持つのか。音楽の意味や価値を考え、深めていきましょう。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	音Ⅱ701	音楽Ⅱ Tutti+	017 教出

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	5/7	見上げてごらん夜の星を／民謡	見上げてごらん夜の星を	四季の歌など
2	6/4	日本歌曲／フランス語の歌	風の子供	羽衣伝説など
3	7/2	ドイツの歌／世界のさまざまな音楽の魅力	歌の翼に	日本の音楽など

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	音や音楽に対する自己のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方を試行錯誤しながら、表したい音楽表現について考え、どのように音楽で表現するかについて表現意図を持たせることができる。	音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどを感じ取りながら、自己のイメージや感情と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりを捉え、理解することができる。	レポート・スクーリング・実技の取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・実技の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		美術 I			学期	前期		
最低面接時数		4 時間	レポート数	3 回	テスト	無	単位数	1 単位
履修できる条件		スクーリングに参加できる生徒			開講する場所			
					本校(日曜)			
評価計画	添削指導	6 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の6割とする。				
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含まない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	実技	4割	定期					
			試問実技	1. 各回レポートに実技課題を設定し、レポートの締め切りにあわせて提出する。				

1. 目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2. 教科の概要(選択の際のアドバイス)

スクーリング時の作品制作や、レポート作成時には画材(絵の具・色鉛筆・筆・パレット等)の準備が必要になります。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	美 I -703	高校美術	116-日文

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	5/7	デザイン	レタリングの練習	漢字の「永」を「明朝体」と「ゴシック体」の2つのスタイルで表現し、ポスターカラーの黒で塗って完成させなさい。
2	6/4	絵画	デッサン	身近な静物(花や果物、雑貨、器、置物など動かないもの)をモチーフ(描く対象物)にしてデッサンしてみましょう。
3	7/2	デザイン	平面構成	正円を2個、直線を3本以上使用して画面を分割します。その分割された面をポスターカラーで配色して完成させましょう。(色数は自由)

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	レポート・スクーリング・実技の取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・実技の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	美術Ⅱ			学期	前期		
最低面接時数	4時間	レポート数	3回	テスト	無	単位数	1単位
履修できる条件	スクーリングに参加できる生徒			開講する場所			
				本校(日曜)			
評価計画	添削指導	6割	各回	1.意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2.提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3.有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1.レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の6割とする。			
	面接指導		各回	1.出席時数の多寡で評価は行わない。 2.出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含まない。			
			全体	1.最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	実技	4割	定期				
			試問実技	1.各回レポートに実技課題を設定し、レポートの締め切りにあわせて提出する。			

1.目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

- (1) 感性や想像力を働かせ、個性豊かな表現を工夫することができる。
- (2) 表現材料や表現形式を工夫し発展させ、効果的に生かす技能を身に付ける。
- (3) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想することができる。

2.教科の概要(選択の際のアドバイス)

スクーリング時の作品制作や、レポート作成時には画材(絵の具・色鉛筆・筆・パレット等)の準備が必要になります。

3.使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	美Ⅱ-702	高校生の美術2	116-日文

4.添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	5/7	絵画	素描	3個の身近な静物をモチーフにしてデッサンしてみましょう。(花・くだもの・器物など動かないもの)
2	6/4	絵画	漫画	4コマ漫画を5話考えて描いてみましょう。読んでみて楽しくなるような4コマ漫画を考えて描きましょう。
3	7/2	絵画	水彩画	水彩絵の具で自画像を描いてみましょう。 鏡で自分の顔を観察しながら水彩絵の具で自画像を描きましょう。

5.観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組む、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	レポート・スクーリング・実技の取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・実技の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	書道 I			学期	前期		
最低面接時数	4 時間	レポート数	3 回	テスト	無	単位数	1 単位
履修できる条件	スクーリングに参加できる生徒			開講する場所			
				本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	6 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の6割とする。			
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含まない。			
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	実技	4 割	定期				
			試問実技	1. 各回レポートに実技課題を設定し、レポートの締め切りにあわせて提出する。			

1. 目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(※生徒の作品を校内展示しながら、学ぶ意欲の向上や自己肯定感の育成に努める。)

2. 教科の概要(選択の際のアドバイス)

芸術科目の中では用具・用具の準備にかかる費用等大変ではあるが、日常における書写能力を高める技術を身につけることができる。また硬筆による実用書や文字の芸術的表現を楽しむことができる。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	38・光村	書 I	705・光村

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	5/7	書道で学習すること・漢字の書・鑑賞など	孔子廟堂碑 用具・用材・姿勢・執筆法、漢字の変遷と書体、楷書の学習(用筆法・結構法、成立と唐の四大家)	
2	6/4	漢字の書(楷書・行書・草書)・鑑賞など	雁塔聖教序 臨書の方法、楷書の学習(書道史、鑑賞)	
3	7/2	漢字の書(行書)・篆刻に挑戦しようなど	風信帖 行書の学習(基本の用筆法と字形)、日本で書かれた行書	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	書の表現の方法や形式、多様性などについて深く考え幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、表現効果を生かして効果的に表現するための技能を身に付けることができる。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて、効果的に構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を深く考え、書の美を味わい捉えたりすることができる。	レポート・スクーリング・実技の取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・実技の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	書道Ⅱ			学期	前期		
最低面接時数	4時間	レポート数	3回	テスト	無	単位数	1単位
履修できる条件	書道Ⅰ修得済みの者			開講する場所			
				本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	6割	各回	1.意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2.提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3.有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1.レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の6割とする。			
	面接指導		各回	1.出席時数の多寡で評価は行わない。 2.出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含まない。			
			全体	1.最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	実技	4割	定期				
			試問実技	1.各回レポートに実技課題を設定し、レポートの締め切りにあわせて提出する。			

1. 目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(※生徒の作品を校内展示しながら、学ぶ意欲の向上や自己肯定感の育成に努める。)

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

芸術科目の中では用具・用具の準備にかかる費用等大変ではあるが、日常における書写能力を高める技術を身につけることができる。また硬筆による実用書や文字の芸術的表現を楽しむことができる。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	38・光村	書Ⅱ	704・光村

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	5/7	個性豊かな漢字の姿・漢字の書(篆書)など	泰山刻石 漢字の書の個性豊かな表情、篆書の学習(篆書の特徴)	
2	6/4	漢字の書(隸書)・鑑賞など	乙瑛碑 隸書の学習(隸書の特徴、隸書の多彩な表情)、行書の学習	
3	7/2	漢字の書(草書・行書)・鑑賞など	十七帖 草書の学習(特徴、多様な表現)、楷書の学習、書道史	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	書の表現の方法や形式、多様性などについて深く考え幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、表現効果を生かして効果的に表現するための技能を身に付けることができる。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて、効果的に構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を深く考え、書の美を味わい捉えたりすることができる。	レポート・スクリーニング・実技の取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・実技の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	英語入門			学期	前期		
最低面接時数	8時間	レポート数	6回	テスト	有	単位数	2単位
履修できる条件	英語C I を未修得の生徒の転編生及び新入生徒に推奨			開講する場所			
				高千穂	本校(日曜)	富島	高鍋
評価計画	添削指導	3割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。			
	面接指導		各回	1. 8時間の最低スクーリング時数(放送視聴4時間分の利用を含む)の充足を基本とする。 出席時間数の多い少ないでは評価しない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度は、評価の中に含めない。 3. 面接指導時間中の意欲や態度が本校の規定に抵触するほど著しく不良な場合には、当該面接時間の出席を認めない。			
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	テスト	7割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			
			試問実技	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			

1. 目標

英語が苦手だと感じていたり、もう一度基礎から英語を学び直したいと考えたりしている生徒に、英語に対する苦手意識を解消し、「読めて」、「話せて」、「聞けて」、「書ける」という「4つの技能」をバランスよく学習させ、次の「英語コミュニケーションⅠ」の学習への橋渡しをスムーズにする。

2. 教科の概要(選択の際のアドバイス)

中学校1、2年生の基礎的な内容がよく工夫されている教材を用い、英語の基礎力を身につけ、次に学ぶ「英語コミュニケーションⅠ」(本校卒業要件筆数単位)の学習を容易にす橋渡し科目である。英語が苦手だと感じていたり、もう一度基礎から英語を勉強し直したいと考えたりしている生徒は、ぜひ英語入門から勉強してください。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書		英語Ⅰ入門 全国私立通信制高等学校 編	NHK出版
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	5/7	First Stage P10~15の上段部分	アルファベット・主語と主格・簡単な自己紹介・This(That) is~の文・所有格・形容詞	
2	5/21	First Stage P15の中段部分~ P19の中段部分	be動詞の疑問文と否定文・一般動詞(be動詞以外の動詞)・定冠詞 the	
3	6/4	First Stage P19下段部分~P31	名詞の複数形・代名詞の複数形・Story①-1・First①-2・First Stageのまとめ	
4	6/18	Second Stage P34~P42	一般動詞の否定文①と疑問文①・一般動詞の否定文②と疑問文②	
5	7/2	Second Stage P43~P56	There is(are)の文・There is(are)の否定文と疑問文・前置詞・疑問詞 who やhow	
6	7/16	First Stage及びSecond Stage 全範囲	テスト対策プリントを兼ねた教科書及びレポートの前期既習内容の確認と復習	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	[知識・技能]各Lesson中の重要文(ターゲット文)や文法事項の形・意味を理解する。 [技能]各Lessonで学んだ文、Lessonで紹介されたトピックについての内容を聞き取る技能を身に付けている。	各Lessonで扱われる日本国内や海外の事柄について書かれた文章の概要を捉える。また学んだ事柄を学んだ後に、筆記な口頭による表現ができる。更に各課の中で紹介される事柄を自身や日本の文化等に対比させて考えることができる。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	英語コミュニケーションⅠ			学期	前期		
最低面接時数	8時間	レポート数	6回	テスト	有	単位数	2単位
履修できる条件	C英語Ⅰを未修得の生徒			開講する場所			
				高千穂	本校(日曜)	富島	高鍋
評価計画	添削指導	3割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。			
	面接指導		各回	1. 8時間の最低スクーリング時数(放送視聴4時間分の利用を含む)の充足を基本とする。 出席時数数の多い少ないでは評価しない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度は、評価の中に含めない。 3. 面接指導時間中の意欲や態度が本校の規定に抵触するほど著しく不良な場合には、当該面接時間の出席を認めない。			
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	テスト	7割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			
			試問実技	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			

1. 目標

幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

2. 教科の概要(選択の際のアドバイス)

英語によるコミュニケーション能力向上に資するよう、基本文型・助動詞・完了形・受動態・関係代名詞などの高校英語の基礎・基本を学習し、その定着を図る。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	C1701	All Abord! English Communication I	2東書
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	5/7	Warm-Up, Pre-Lesson, Lesson 1 Breakfast Around the World	教室英語、疑問詞、動詞の過去形など	
2	5/21	Lesson 2 Australia's Cute Quokkas	進行形など	
3	6/4	Lesson 3 A Train Driver in Sanriku	助動詞など	
4	6/18	Lesson 4 A Miracle Mirror	to不定詞など	
5	7/2	Lesson 5 Learning from the Sea	動名詞など	
6	7/16	前期学習範囲のまとめ	Lesson1~5の既習内容の確認と復習	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	[知識・技能]各Lesson中の重要文(ターゲット文)や文法事項の形・意味を理解する。 [技能]各Lessonで学んだ文、文法事項などの理解をもとに、同Lessonで紹介されたトピックについての内容を聞き取る技能を身に付けてい	各Lessonで扱われる日本国内や海外の事柄について書かれた文章の概要を捉える。また、学んだ事柄を学んだ後に、筆記や口頭による表現している。更に、各課の中で紹介される事柄を自分自身や日本の場合などと対比させて考えようとしている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		